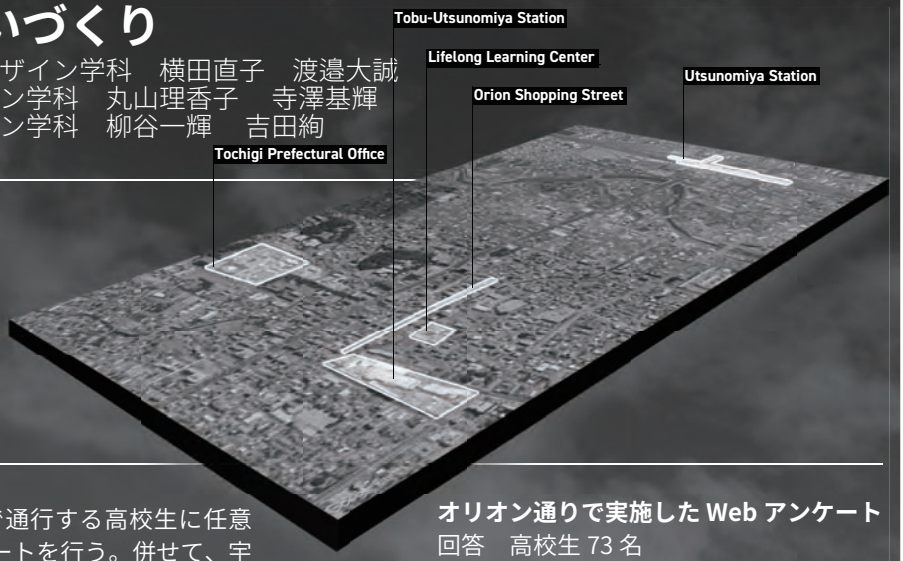
中心市街地の活性化とにぎわいづくり

宇都宮まちづくり推進機構 3 班　コミュニティデザイン学科　横田直子　渡邉大誠
建築都市デザイン学科　丸山理香子　寺澤基輝
社会基盤デザイン学科　柳谷一輝　吉田絢



分析結果
RESALT OF ANALYSIS

栃木県のシンボルであるオリオン通りでは、近年、新規出店が相次ぐ中、通行客数の伸び悩みが課題となっている。宇都宮まちづくり推進機構では、オープンカフェなどの施策を実行してきたが、大きな成果は見えていない。

目的
PURPOSE

オリオン通りを通行する高校生において、単に通過するだけでなく、長時間滞在をしたくなるような場を作り、オリオン通りに再び賑わいをもたらす起爆剤とする。

方法
METHOD

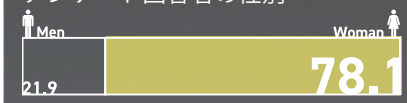
オリオン通りで通行する高校生に任意で Web アンケートを行う。併せて、宇都宮大学の市内高校出身の学生に、オリオン通りに関するヒアリングを行う。

オリオン通りで実施した Web アンケート
回答　高校生 73 名
栃木県出身の大学生へのヒアリング
回答　大学生 17 名

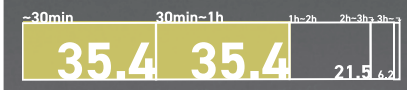
分析結果
RESALT OF ANALYSIS

オリオン通りで実施した Web アンケート

アンケート回答者の性別

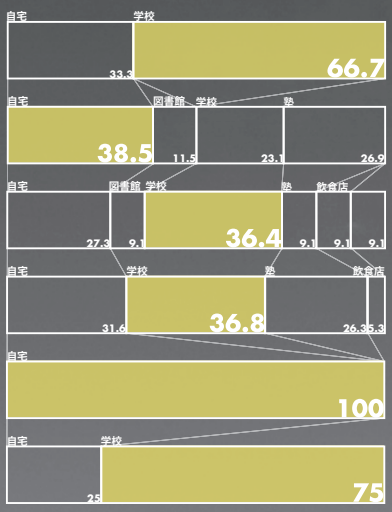


オリオン通りの滞在時間



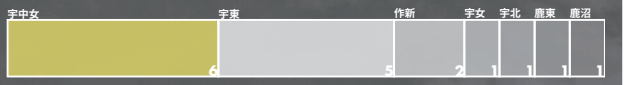
1 日の学習時間

下校時間と学習場所

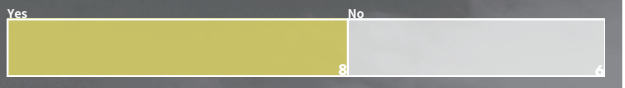


栃木県出身の大学生へのアンケート

出身高校



オリオン通りにフリースペースが欲しいか



普段の学習場所とその理由

学校
静かで集中できる
質問できる
夜遅くまで開いている

自宅
外に出ずにすむ
移動効率が良い
自由に勉強ができる

塾
仲の良い子と勉強できる
質問できる
家では集中できないから

公共スペース
周りに受験生が多く集中できる
駅の近くで便利
静かで集中できる

オリオン通りでの滞在時間は 1 時間以内が 7 割と短く、利用方法もタピオカを飲む（宇短附・宇中女・宇女・作新）など飲食での利用が目立った。

勉強場所として求める条件として、アクセスのよいこと、静かであること、勉強している人がほかにもいる空間であること・質問できることがあげられる。

提案
PROPOSAL

調査結果を踏まえ、**高校生向けの無料の学習スペース**を、オリオン通り沿いにある**イエローフィッシュ**で実施する。イエローフィッシュはパートナーである宇都宮まちづくり推進機構が所有しており、すぐにアクションを起こせる場として選定した。